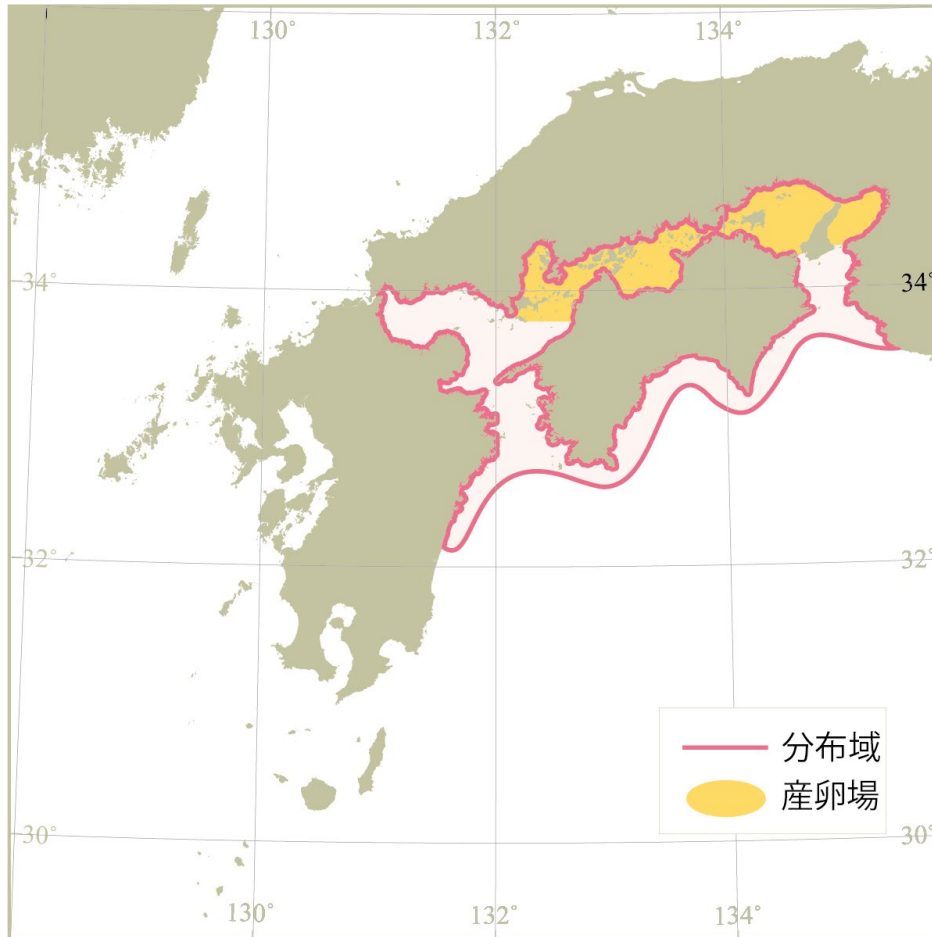




サワラ瀬戸内海系群 令和3年度資源評価結果

生物学的特性

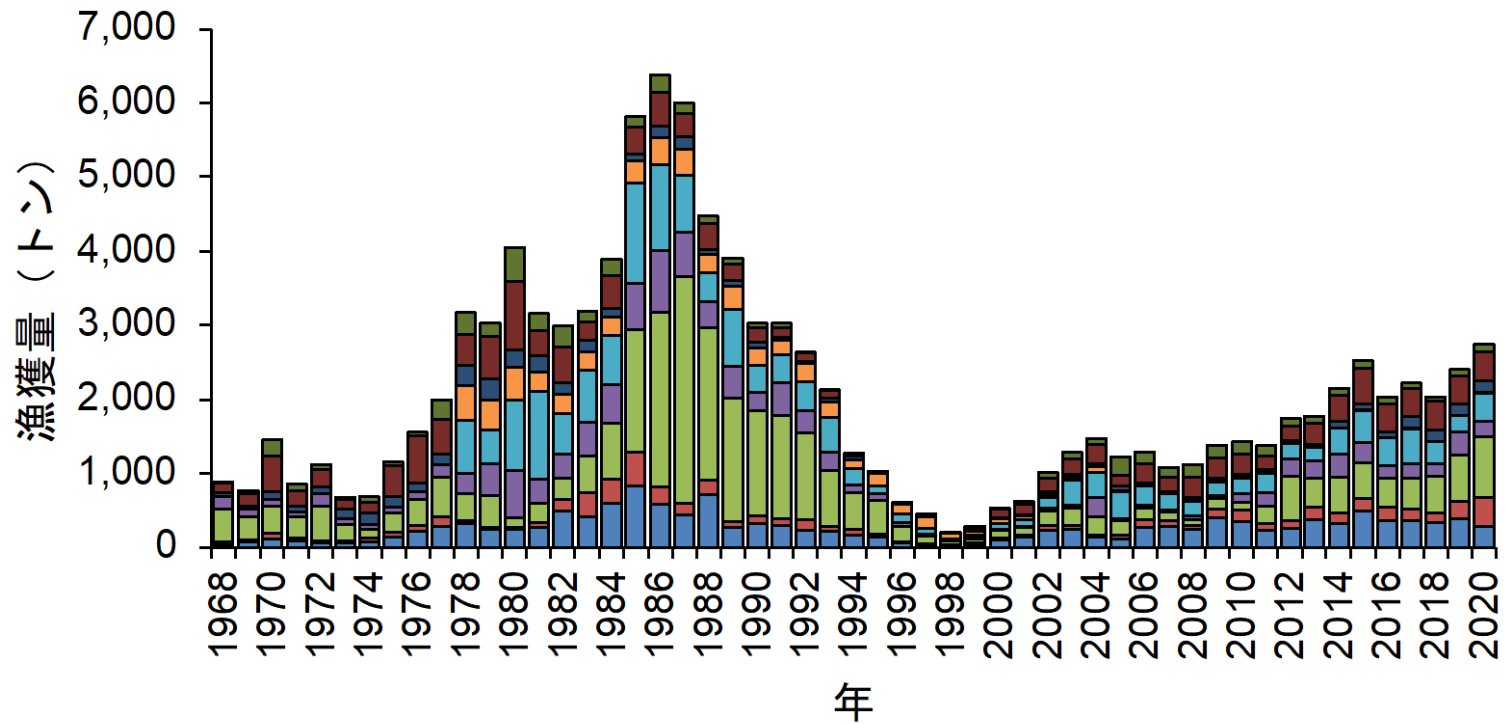


生物学的特性

- 寿命: 6~8歳(雌が長寿)
- 成熟開始年齢: 1歳(50%)
- 産卵期・産卵場: 5~6月
播磨灘、備讃瀬戸、燧灘、
安芸灘
- 食性:
稚魚はカタクチイワシ等の稚魚
成魚はカタクチイワシ、イカナゴ
等の魚類
- 捕食者: 不明

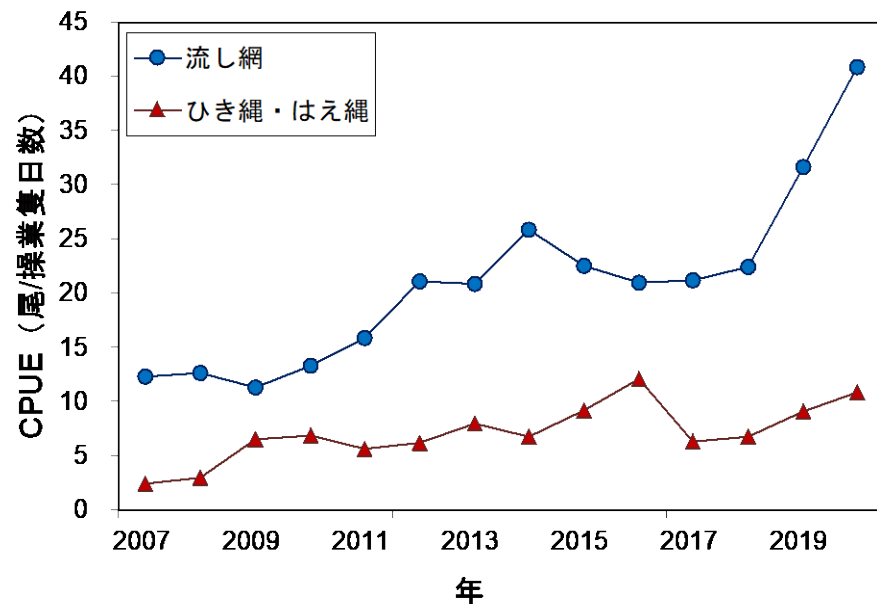
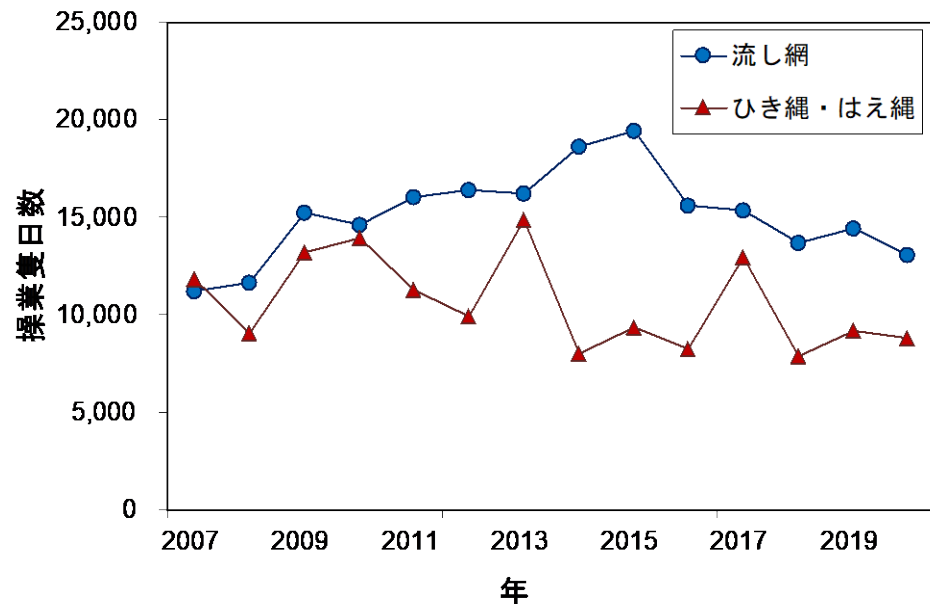
- 春季に瀬戸内海中央部へ来遊する1歳以上を、秋季に紀伊水道と豊後水道に移動する0歳以上を漁獲する

漁獲の動向①



- 2020年の漁獲量：2,746トン（2019年：2,398トン）
- 流し網漁業の割合が高く、次いでひき縄、はえ縄
- 2020年は8.4万尾の人工種苗が放流
放流魚の混入率は0.4%、添加効率は0.09と推定

漁獲の動向②

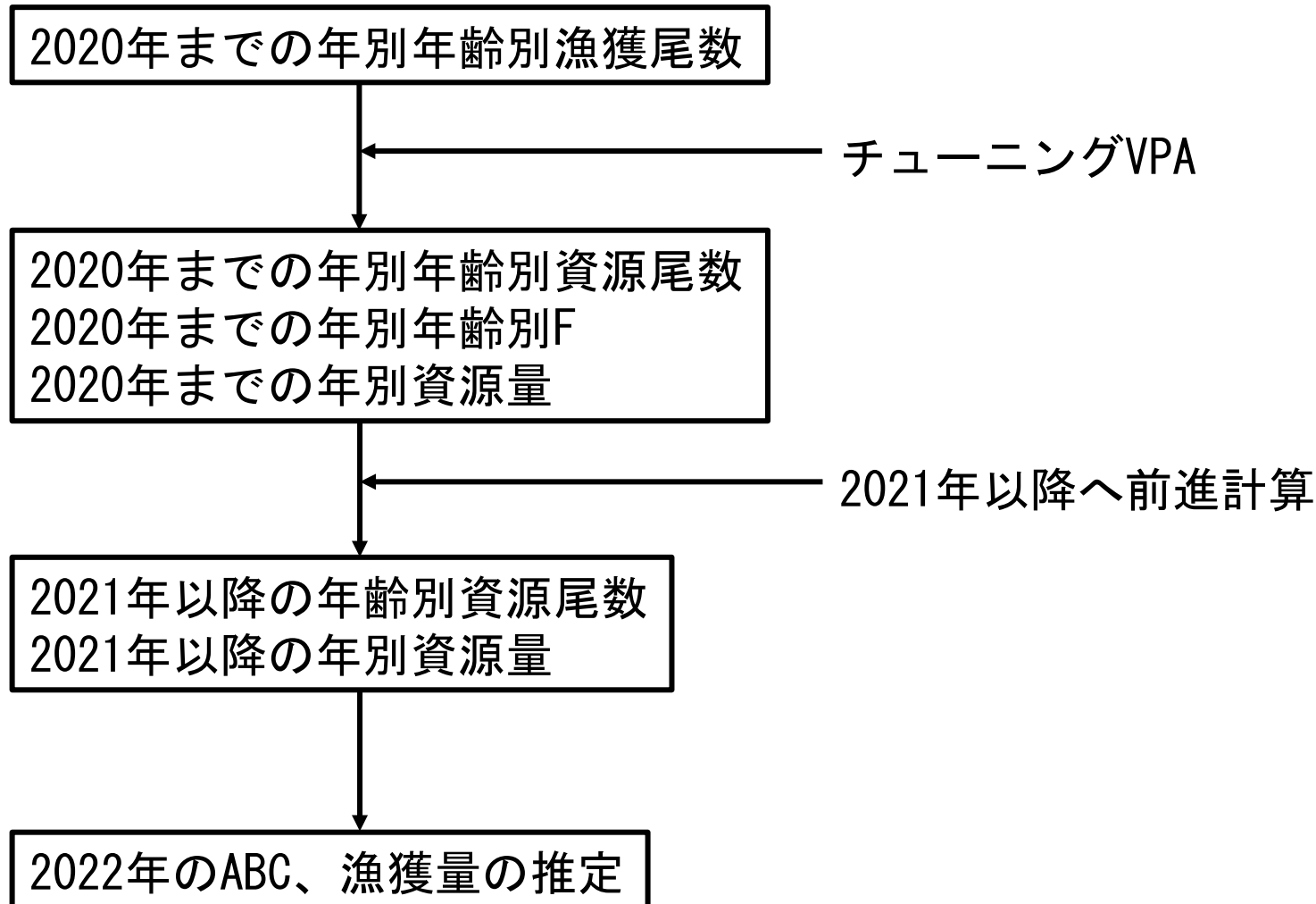


- 流し網の操業隻日数は、2016年以降、減少傾向
- ひき縄・はえ縄の操業隻日数は、減少傾向
- 流し網のCPUEは、2007年以降、上昇傾向で、2019年以降、著しく上昇
- ひき縄・はえ縄のCPUEは、2007年以降、上昇傾向

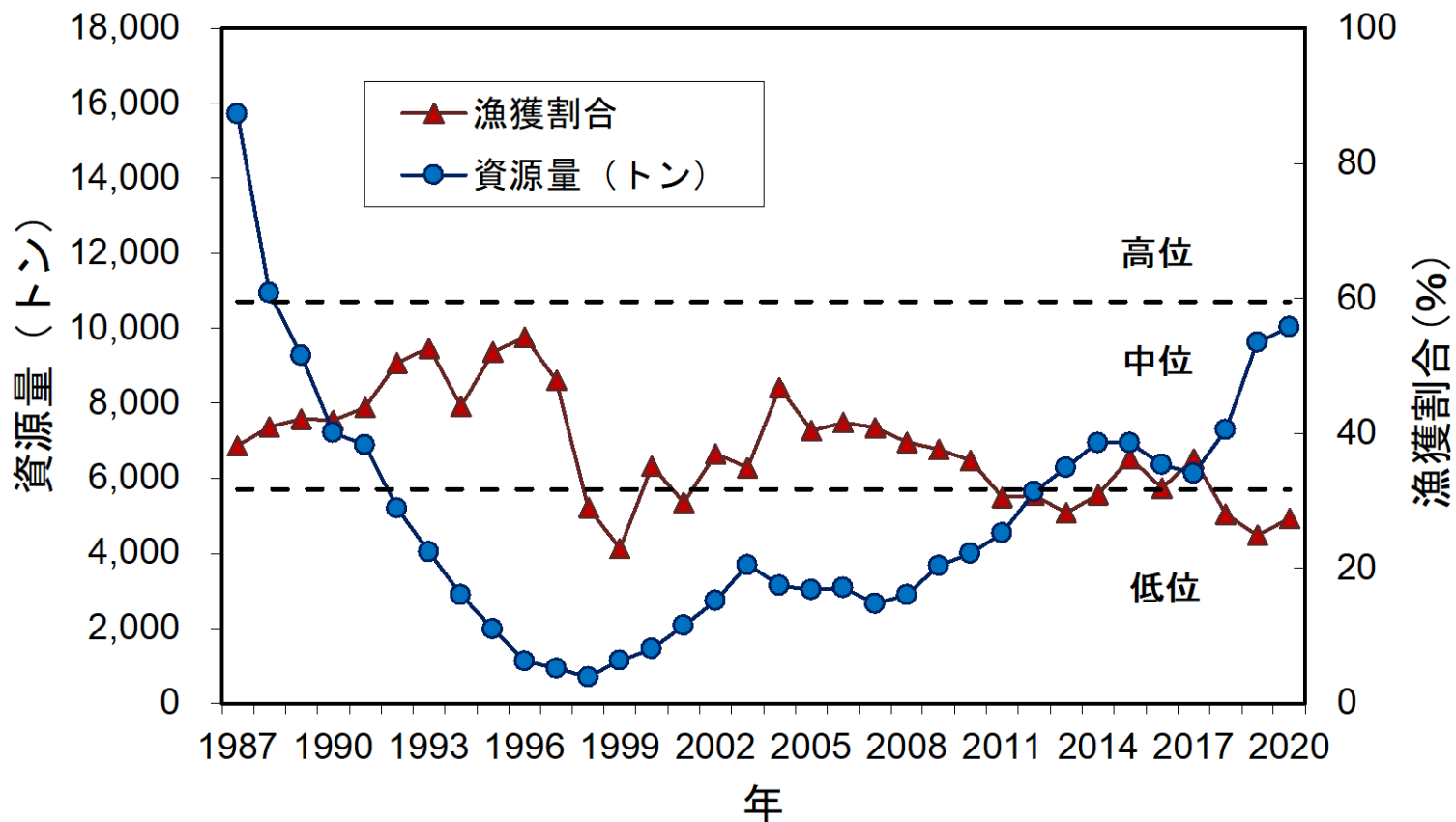
※操業隻日数：サワラを対象とした1隻ごとの操業日数を隻数で合算

※CPUE：操業隻日数当たりの漁獲尾数

資源評価の流れ



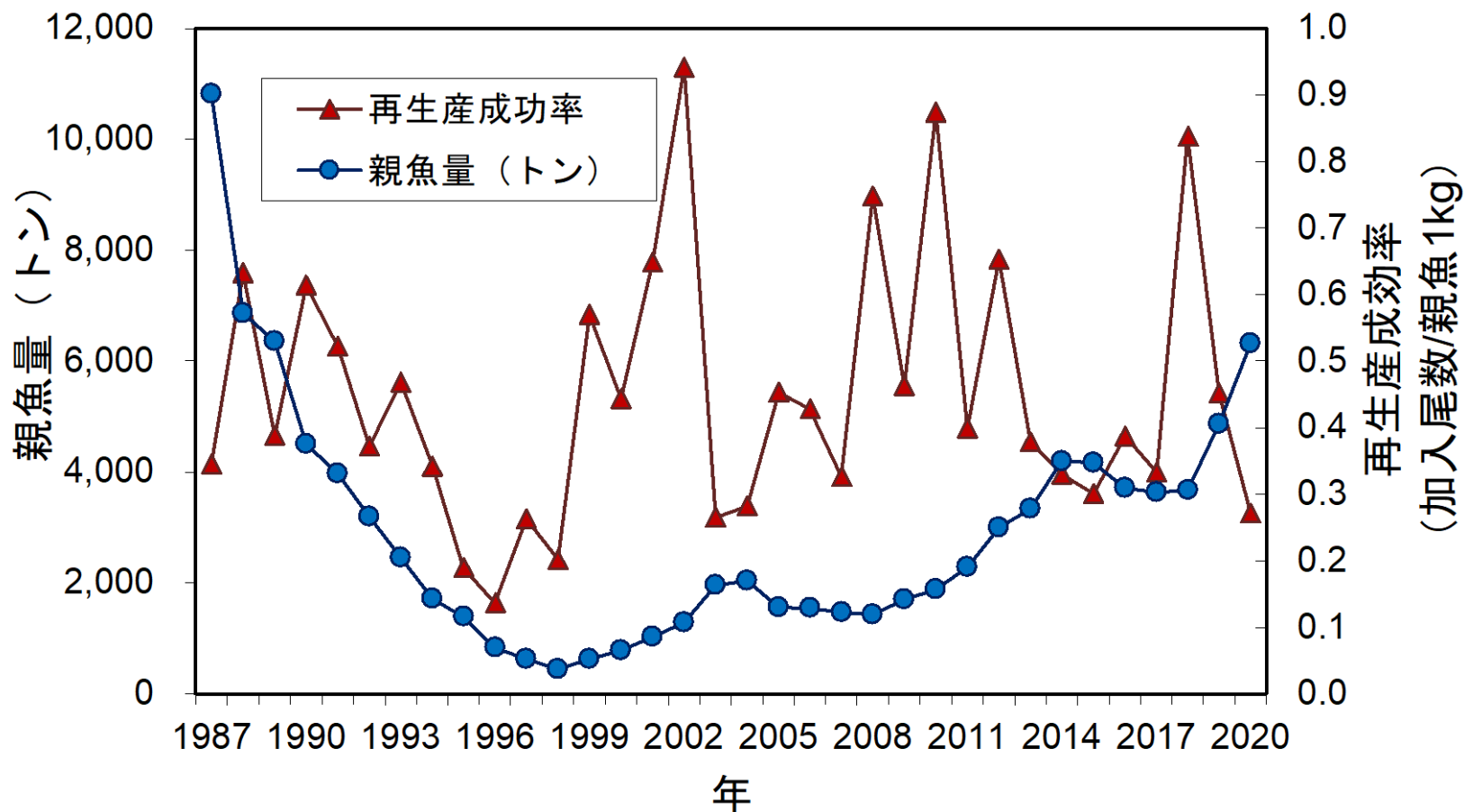
資源の動向①



※水準区分 低位／中位：5,698トン、中位／高位：10,708トン
(1987年以降の資源量の最高値と最低値との間を3等分して算出)

- 資源水準：2020年の資源量10,020トンから「中位」
- 資源動向：直近5年間の資源量の推移から「増加」

資源の動向②



- 親魚量：1999年以降、増加傾向（2020年は6,316トン）
- 再生産成功率：0.14尾/kg～0.94尾/kgで変動し、2020年は0.27尾/kg

資源評価のまとめ

- 資源水準は中位、動向は増加
- チューニングVPAによる資源量に基づいて資源状態を判断した

2022年ABC

管理基準	Target/ Limit	2022年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値か らの増減%)
Fcurrent	Target	2,758	22	0.44 (-20%)
	Limit	3,252	25	0.55 (±0%)

- Fcurrent : 2020年の漁獲圧